

診断に約2年を要した慢性咳嗽の1例

村嶋 智明, 内藤 健晴

藤田保健衛生大学 医学部 耳鼻咽喉科学教室

【はじめに】 8週間以上持続する咳嗽は慢性咳嗽と定義される。このうち胸部レントゲン写真や胸部聴診上でも異常を呈さない原因不明な慢性咳嗽患者は増加傾向とされる。今回、慢性咳嗽、咽喉頭異常感を主訴に当科を受診し、診断に約2年を要した症例を経験したため報告する。

【症例】 60代, 男性

【臨床経過】 10か月前より持続する慢性咳嗽および咽喉頭異常感にて当院内科初診。受診時の胸部レントゲン写真は正常, 胸部聴診上で異常呼吸音は聴取されず, また呼吸機能検査では軽度閉塞性障害を認めるのみであった。内科では感染後咳嗽として加療され咳嗽は軽減傾向であったものの, 咽喉頭異常感の持続や咳嗽の再燃を認めたため, 耳鼻咽喉科領域の疾患否定のために当科紹介となった。

当科受診後の臨床経過の詳細については当日発表する。

【考察】 咳嗽は医療機関を受診する主訴として最も多いとされ, 我々耳鼻咽喉科医もその診療に携わること少なくない。慢性咳嗽患者に遭遇した際には, 耳鼻咽喉科領域の慢性咳嗽の原因疾患となりうる後鼻漏症候群や喉頭アレルギーの他にも, 他疾患の合併を考慮して診療にあたる必要がある。